スーパーマーケット販売統計調査

2026 年 9 月実績 速報版
8 月実績 確報版

(2026 年 10 月 20 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に取り扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表　確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較　既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品			日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他			テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側（宗谷南部）、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側（網走・北見・紋別地方）、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ
tokei@super.or.jp

2026年10月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2026年9月実績　速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	113,791,395	100.0%	102.1%	100.9%
食品合計	105,416,709	92.6%	102.0%	100.6%
生鮮３部門合計	39,126,278	34.4%	103.9%	102.3%
青果	16,515,565	14.5%	102.0%	100.7%
水産	9,392,519	8.3%	103.0%	101.2%
畜産	13,218,193	11.6%	107.0%	105.2%
惣菜	13,030,628	11.5%	102.6%	101.2%
日配	23,830,910	20.9%	102.2%	100.9%
一般食品	29,428,893	25.9%	99.1%	97.9%
非食品	6,059,279	5.3%	104.7%	104.5%
その他	2,315,449	2.0%	100.7%	100.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	14,460,837	43	102.5%	101.6%
関東地方	41,775,045	73	102.4%	100.6%
中部地方	13,524,039	53	103.6%	102.1%
近畿地方	27,223,726	44	100.9%	100.1%
中国・四国地方	11,526,751	34	103.2%	101.8%
九州・沖縄地方	5,280,997	23	97.8%	97.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	508,607	46	96.4%	96.4%
4～10店舗	4,760,930	85	101.0%	100.2%
11～25店舗	8,667,643	48	101.7%	101.5%
26～50店舗	18,970,572	45	101.5%	100.6%
51店舗以上	80,883,644	46	102.5%	100.9%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	112,280,666
総店舗数（店舗）	8,607	店舗平均月商（万円）	13,221
総売場面積（㎡）	14,427,502	売場１㎡あたり売上高（万円）	7.9

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

2026年10月20日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
2026年8月実績　確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
総売上高	121,648,407	100.0%	102.3%	101.2%
食品合計	112,516,346	92.5%	102.5%	101.3%
生鮮３部門合計	41,613,974	34.2%	104.9%	103.6%
青果	17,860,192	14.7%	104.6%	103.5%
水産	10,185,297	8.4%	105.4%	104.0%
畜産	13,568,485	11.2%	104.8%	103.3%
惣菜	14,685,352	12.1%	104.0%	102.6%
日配	24,914,973	20.5%	102.2%	100.9%
一般食品	31,302,047	25.7%	99.2%	98.3%
非食品	6,467,719	5.3%	99.9%	98.8%
その他	2,664,379	2.2%	100.0%	99.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
北海道・東北地方	16,458,995	43	100.9%	100.3%
関東地方	43,256,144	73	102.7%	101.1%
中部地方	15,049,321	53	102.6%	101.8%
近畿地方	28,458,438	44	101.9%	101.0%
中国・四国地方	12,380,619	34	102.9%	101.6%
九州・沖縄地方	6,044,890	23	104.5%	104.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比（全店）	前年同月比（既存店）
1～3店舗	577,286	46	100.2%	100.2%
4～10店舗	4,967,046	84	101.6%	101.4%
11～25店舗	9,546,139	48	102.0%	101.7%
26～50店舗	21,313,753	46	102.1%	101.3%
51店舗以上	85,244,182	46	102.5%	101.2%

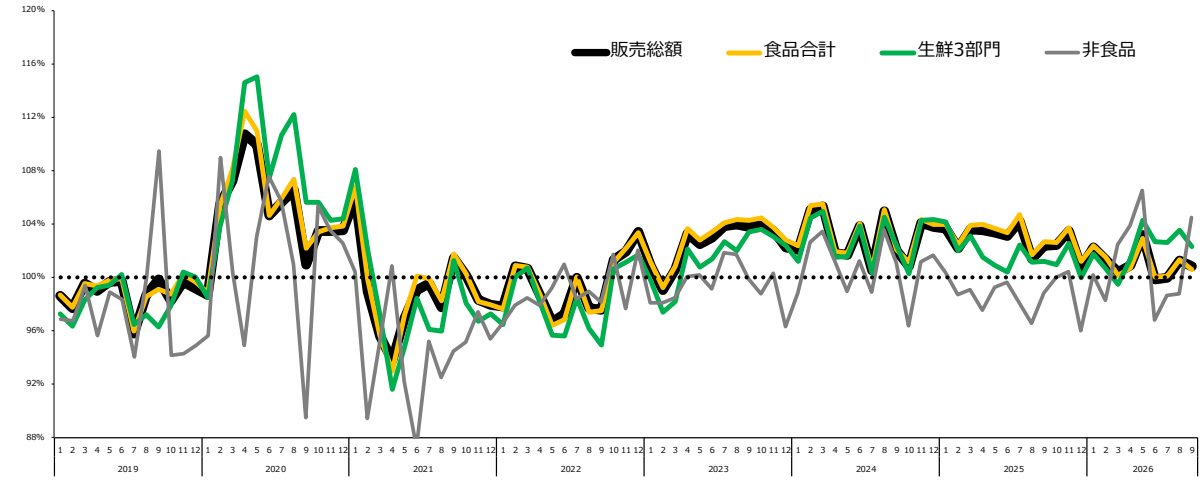
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	119,762,201
総店舗数（店舗）	8,608	店舗平均月商（万円）	14,132
総売場面積（㎡）	14,421,329	売場１㎡あたり売上高（万円）	8.4

※売上高は税抜金額

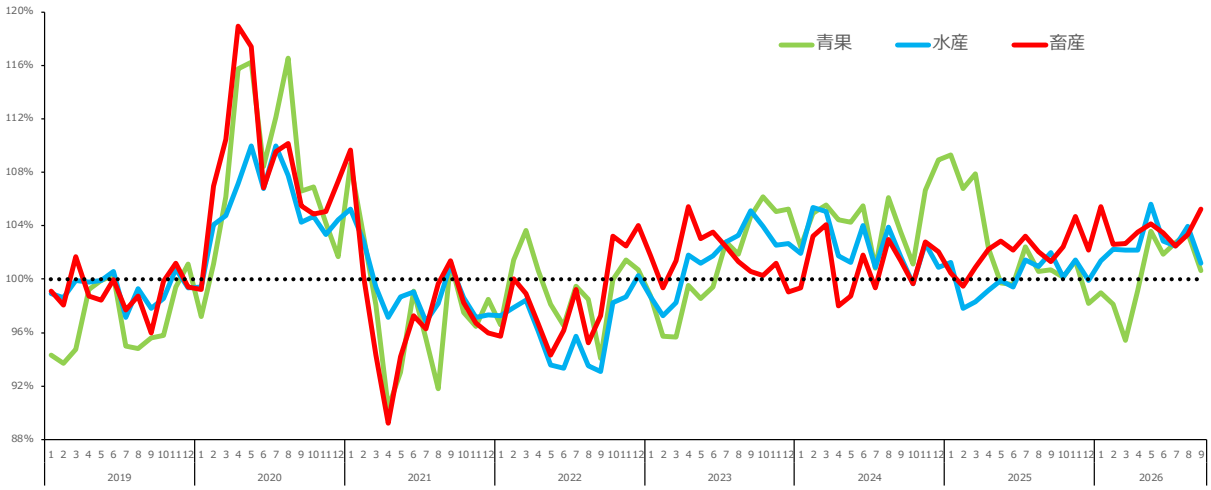
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第２位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査　前年同月比（既存店）推移　2019年1月～

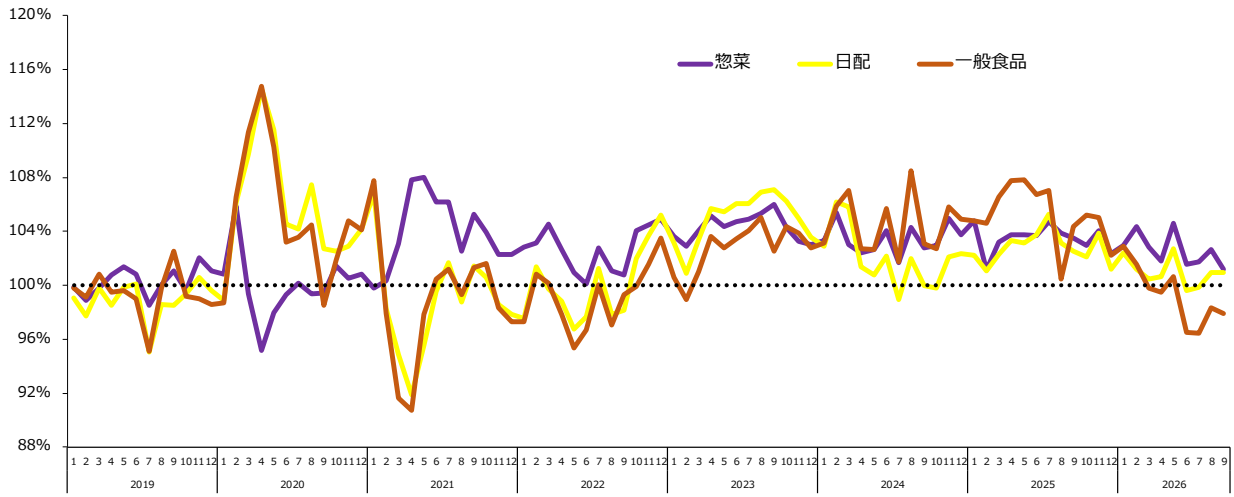
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2026年9月実績は速報版

2026年9月　エリア別気候状況

9月の気温：平年との比較では、西日本で高かった。

上旬：北・東日本で低かった。

中旬：北日本日本海側と西日本で高かった。

下旬：全国的に高かった。

前年差：上旬は全国的にかなり低かった。中旬は東・西日本でかなり低く、下旬も全国的に低かった。

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2026年9月 (今年)			2025年9月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	-0.9	0.9	1.3	2.4	1.9	2.1	-3.3	-1.0	-0.8
太平洋側	-1.0	0.4	1.6	2.5	2.3	2.1	-3.5	-1.9	-0.5
東日本 日本海側	0.1	0.6	1.2	2.8	3.0	2.1	-2.7	-2.4	-0.9
太平洋側	-0.9	-0.1	1.3	2.9	2.8	2.4	-3.8	-2.9	-1.1
西日本 日本海側	0.9	0.9	1.1	2.9	3.3	2.8	-2.0	-2.4	-1.7
太平洋側	0.0	0.9	1.2	2.4	3.0	2.2	-2.4	-2.1	-1.0

平年差
＋2℃以上　＋1℃以上　－2℃以上　－1℃以上

前年差
＋2℃以上　＋1℃以上　－2℃以上　－1℃以上

9月の日照時間：東日本日本海側と東・西日本太平洋側でかなり少なく、東日本太平洋側は1946年以降の9月で最少だった。

上旬：東日本太平洋側と西日本でかなり少なく、北日本と東日本日本海側で少なかった。

中旬：北日本日本海側では多かったが、東日本太平洋側でかなり少なく、東日本日本海側と西日本で少なかった。

下旬：北日本日本海側で多かったが、東日本太平洋側でかなり少なく、東日本日本海側では少なかった。

前年差：上旬は東・西日本でかなり少なかった。下旬は東日本太平洋側でかなり少なかった。

	日照時間　平年比（%）						今年と前年との差		
	2026年9月 (今年)			2025年9月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	81	125	111	101	119	134	-20	6	-23
太平洋側	77	92	109	106	126	146	-29	-34	-37
東日本 日本海側	67	67	87	132	86	127	-65	-19	-40
太平洋側	30	48	63	137	79	148	-107	-31	-85
西日本 日本海側	61	64	106	118	84	84	-57	-20	22
太平洋側	41	72	109	128	110	89	-87	-38	20

平年差
平年比150%以上　平年比125%～149%　平年比50%以下　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　＋25～49%　－50%以下　－25～-49%

9月の降水量：東日本太平洋側でかなり多く、1946年以降の9月で最多だった。

上旬：東日本でかなり多く、北・西日本太平洋側で多かった。

中旬：東日本太平洋側で多く、北日本で少なかった。

下旬：東日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側で多く、北日本太平洋側と東日本日本海側で少なかった。

前年差：上旬は北・東・西日本太平洋側で多かった。中旬は北日本と東・西日本日本海側で少なかった。下旬は東日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。

	降水量　平年比（%）						今年と前年との差		
	2026年9月 (今年)			2025年9月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	114	41	93	138	173	98	-24	-132	-5
太平洋側	184	48	72	134	141	75	50	-93	-3
東日本 日本海側	196	110	67	154	204	109	42	-94	-42
太平洋側	341	159	225	148	82	13	193	77	212
西日本 日本海側	90	69	130	125	143	50	-35	-74	80
太平洋側	229	100	111	147	68	70	82	32	41

平年差
平年比150%以上　平年比125%～149%　平年比50%以下　平年比51%～75%

前年差
＋50%以上　＋25～49%　－50%以下　－25～-49%

気象庁ホームページ「2026年9月の天候」を参考に事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2026年10月調査結果（9月実績）
（10月20日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1.経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について
- 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの５段階で評価
- 前年同月を100とした当月の値を調査　※2014年4月実績より

2.カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、
- 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの５段階で評価
- 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI（Diffusion Index）の算出方法
回答構成比（%）に以下の点数を乗じてDIを算出
かなり改善＋0.5・やや改善＋0.25・変わらない±0 ・やや悪化－0.25・かなり悪化－0.5
※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1.景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ２～３ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで５段階で評価
- 今後２～３ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの５段階で評価

景況感DI（Diffusion Index）の算出方法
回答構成比（%）に以下の点数を乗じてDIを算出
かなり改善＋1.0・やや改善＋0.75・変わらない＋0.5 ・やや悪化＋0.25・かなり悪化＋0
※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人　全国スーパーマーケット協会
一般社団法人　日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

10 月調査（9 月実績）結果概況

景況感は前月から悪化傾向

9 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI の現状判断は、前月から－2.4 の 43.8、見通し判断も前月から－2.4 の 40.7 となり、ともに悪化傾向となった。

経営動向調査では、売上高 DI は－2.9 となり、マイナス圏に転じた。収益 DI も前月から低下し、マイナス幅が拡大した。来客数 DI は前月から大幅に低下し、－14.7 となった。一方、客単価 DI は前月から＋3.1 と上昇した。販売価格 DI や各仕入原価 DI は高止まり傾向が続いている。

カテゴリー動向調査は、畜産を除くすべてのカテゴリーで前月から低下した。青果と水産はともにマイナス圏に転じ、惣菜と日配はプラス圏を維持したものの、前月から低下した。一般食品、非食品もマイナス圏で推移した。一方、畜産は前月から＋5.9 の 13.9 となり、プラス幅が拡大した（カテゴリー別動向に詳細掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断ともに前月から悪化した。消費者購買意欲 DI も現状判断、見通し判断ともに前月を下回り、いずれも 50 を下回る状況が続いた。上旬の秋雨前線による大雨や下旬の台風 25 号など、天候不順による客数減に加え、食品価格の上昇が続くなかで買上点数の減少もみられ、消費マインドには引き続き慎重さがみられる。（長期傾向は P11 参照）

値上げによる一品単価の上昇が売上高を支える一方、客数や買上点数の減少が続いており、売上金額だけでは捉えにくい消費の弱さ、利益確保の難しさが企業の決算にも現れている。円安とコスト上昇が続くなか、相次ぐサイバー攻撃に対するセキュリティの強化、飲食料品の消費税率引下げなどの対応も迫られている。収益性を維持しつつ、季節需要や日々の食事需要を捉えた品揃えや売場づくりを通じて、来店や追加購買につながる機会をどのように生み出していくかが、今後の重要な課題となる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：43．8（－2．4）	当月：43．0（－1．6）	当月：43．0（－1．8）	当月：45．1（－1．5）
前月：46．2	前月：44．6	前月：44．8	前月：46．6

見通し判断

景気判断DI	消費者購買意欲DI	周辺地域　競合状況DI	店舗周辺地域　景気判断DI
当月：40．7（－2．4）	当月：42．3（－0．8）	当月：41．0（－1．9）	当月：44．3（－1．5）
前月：43．1	前月：43．1	前月：42．9	前月：45．8

経営動向調査　経営状況

売上高DI	客単価DI	来客数DI	
当月：－2．9（－3．9）	当月：14．8（＋3．1）	当月：－14．7（－6．5）	
前月：1．0	前月：11．7	前月：－8．2	
収益DI	**販売価格DI**	**生鮮品仕入原価DI**	**食品仕入原価DI**
当月：－7．0（－4．1）	当月：20．1（－0．6）	当月：17．2（＋0．5）	当月：17．2（－0．1）
前月：－2．9	前月：20．7	前月：16．7	前月：17．3

カテゴリー動向

青果DI	水産DI	畜産DI	
当月：－4．2（－14．5）	当月：－0．3（－9．0）	当月：13．9（＋5．9）	
前月：10．3	前月：8．7	前月：8．0	
惣菜DI	**日配DI**	**一般食品DI**	**非食品DI**
当月：5．1（－3．3）	当月：0．3（－1．6）	当月：－11．3（－0．4）	当月：－4．4（－0．8）
前月：8．4	前月：1．9	前月：－10．9	前月：－3．6

※DI 値は前年同月との比較／（）内は前月 DI からの変化

結果詳細　Ⅰ．経営動向調査（2015 年 4 月～）

1．　売上高 DI

前月から小幅に下落、マイナス圏に

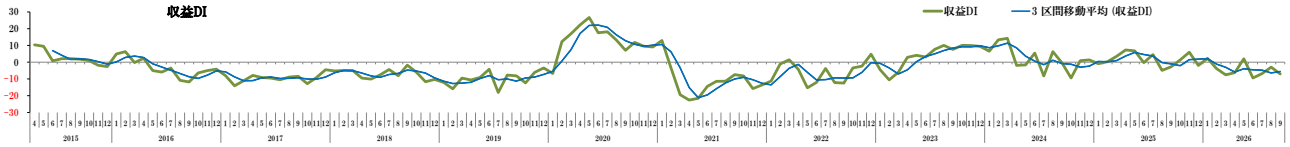
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	2.4	23.6	43.1	29.3	1.6	1.0
売上高（当月）	**9.4**	**27.1**	**31.3**	**30.2**	**2.1**	**-2.9**



2．　収益 DI

前月から下落、マイナス幅を拡大

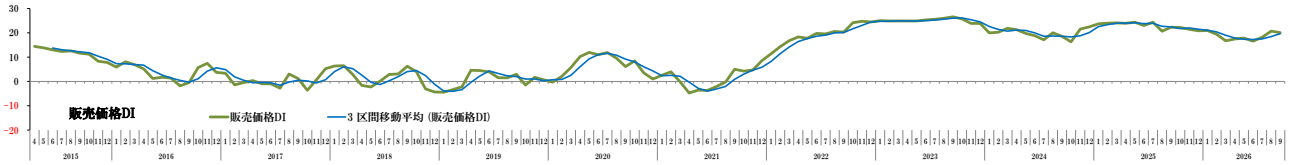
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	5.0	31.7	40.0	16.7	6.7	-2.9
収益（当月）	**11.8**	**32.3**	**31.2**	**21.5**	**3.2**	**-7.0**



3．　販売価格 DI

前月から小幅に下落もプラス 20 台を維持

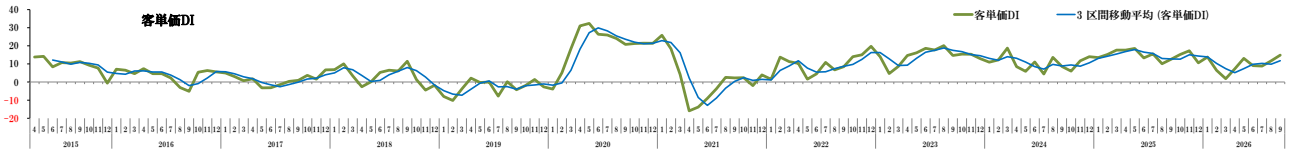
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	0.8	22.1	70.5	6.6	20.7
販売価格（当月）	**0.0**	**1.0**	**20.8**	**75.0**	**3.1**	**20.1**



4．　客単価 DI

前月から上昇、プラス圏で推移

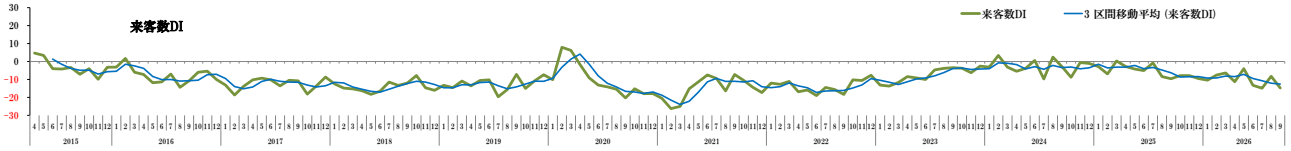
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.0	8.2	38.5	51.6	1.6	11.7
客単価（当月）	**0.0**	**4.2**	**36.5**	**55.2**	**4.2**	**14.8**



5. 来客数 DI

前月から下落、マイナス幅を拡大

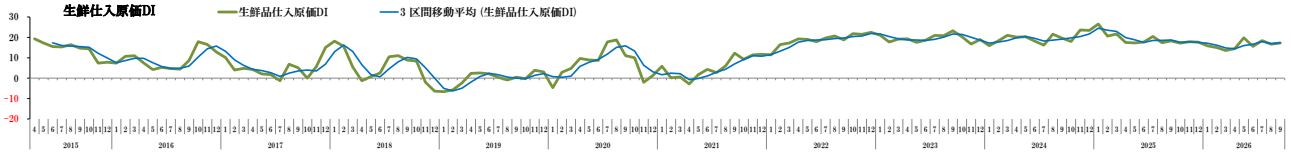
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数（前月）	4.9	41.0	37.7	14.8	1.6	-8.2
来客数（当月）	**13.7**	**45.3**	**27.4**	**13.7**	**0.0**	**-14.7**



6. 生鮮仕入原価 DI

前月水準の二桁プラス域で推移

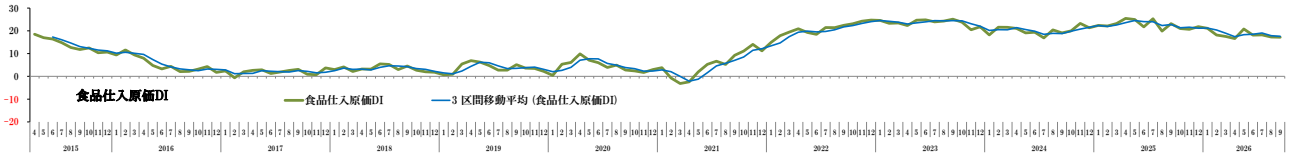
回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価（前月）	1.7	8.3	20.0	61.7	8.3	16.7
生鮮仕入原価（当月）	**0.0**	**5.4**	**26.9**	**61.3**	**6.5**	**17.2**



7. 食品仕入原価 DI

前月水準で推移、65 か月連続プラス圏

回答構成比（%）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価（前月）	2.5	9.2	17.5	58.3	12.5	17.3
食品仕入原価（当月）	**2.2**	**9.7**	**15.1**	**63.4**	**9.7**	**17.2**

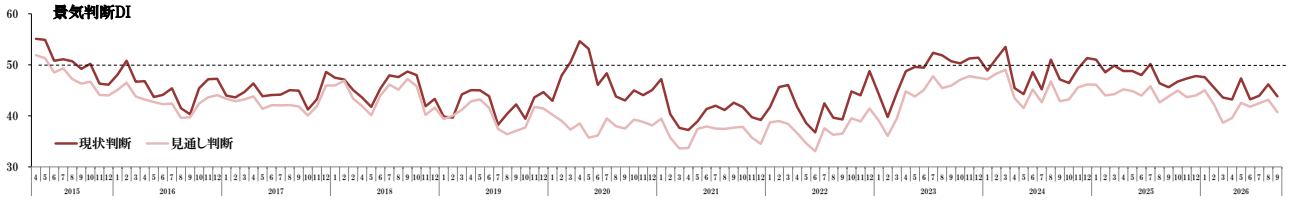


Ⅱ．景況感調査（2015 年 4 月～）

1． 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断ともに前月から悪化

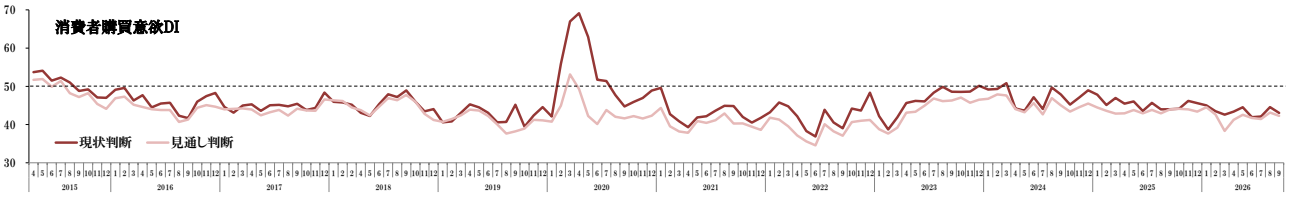
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	0.0	27.4	60.5	12.1	0.0	46.2
【現状】景気判断（当月）	**3.1**	**24.7**	**66.0**	**6.2**	**0.0**	**43.8**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	1.6	32.3	58.1	8.1	0.0	43.1
【見通し】景気判断（当月）	**7.2**	**26.8**	**61.9**	**4.1**	**0.0**	**40.7**



2． 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断ともに前月から小幅に悪化

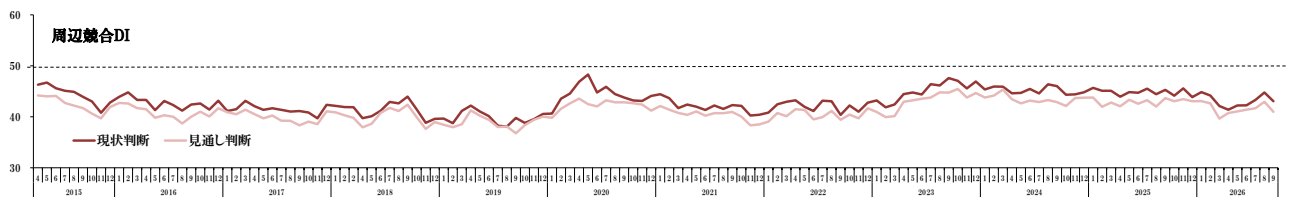
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.0	26.6	68.5	4.8	0.0	44.6
【現状】購買意欲（当月）	**1.0**	**32.0**	**60.8**	**6.2**	**0.0**	**43.0**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	1.6	28.2	66.1	4.0	0.0	43.1
【見通し】購買意欲（当月）	**2.1**	**30.9**	**62.9**	**4.1**	**0.0**	**42.3**



3． 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に悪化

回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	1.6	22.6	71.0	4.8	0.0	44.8
【現状】競合状況（当月）	**2.1**	**24.7**	**72.2**	**1.0**	**0.0**	**43.0**
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	3.2	26.6	65.3	4.8	0.0	42.9
【見通し】競合状況（当月）	**4.1**	**29.9**	**63.9**	**2.1**	**0.0**	**41.0**

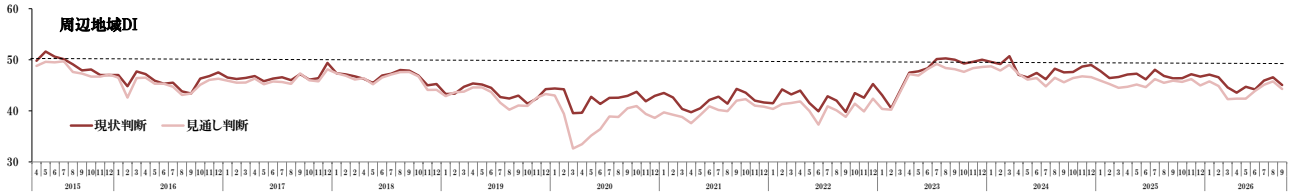


4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に悪化

回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	0.0	18.5	76.6	4.8	0.0	46.6
【現状】地域景気（当月）	**1.0**	**19.8**	**77.1**	**2.1**	**0.0**	**45.1**

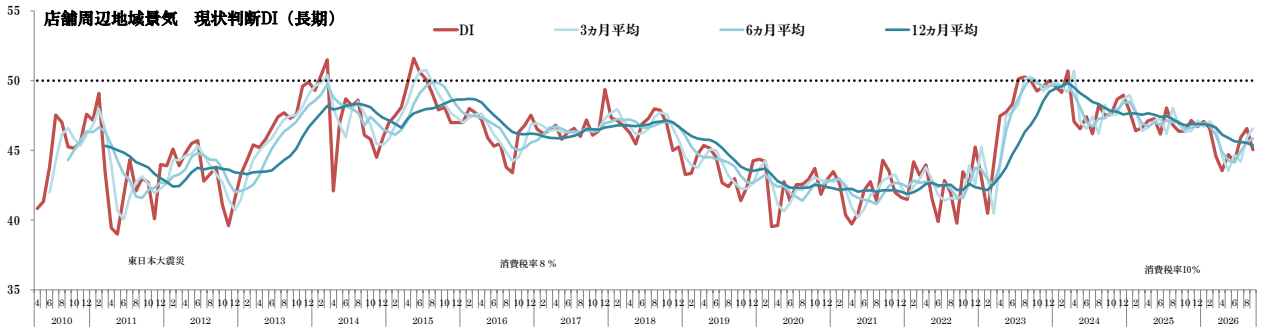
回答構成比（%）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	0.0	21.8	73.4	4.8	0.0	45.8
【見通し】地域景気（当月）	**1.0**	**25.0**	**69.8**	**4.2**	**0.0**	**44.3**

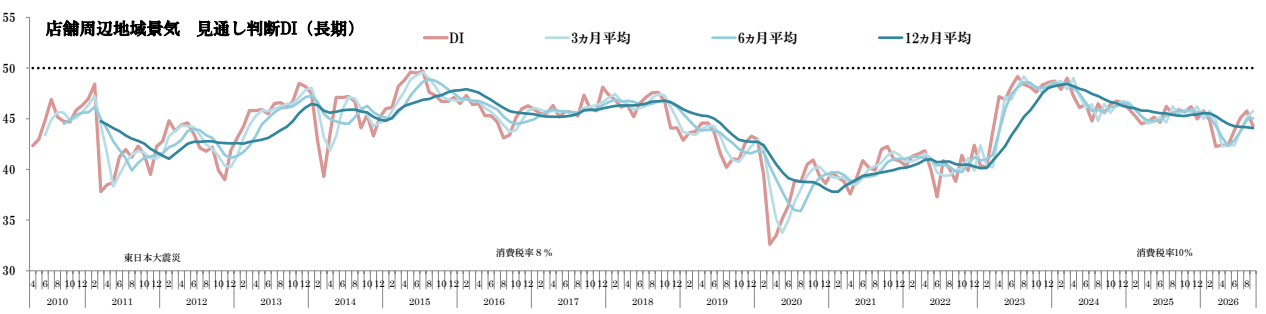


・中核店舗周辺地域景気判断 DI　長期傾向（2010 年 4 月～）

周辺地域景気判断 DI は 2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷を続けたが、12 年 11 月から 16 カ月にわたる改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率 8%への引き上げにより大幅に悪化したものの、その後は徐々に持ち直し、15 年 5 月には現状判断 DI が 51.6 に達し、調査開始以来の最高値を更新した。その後、15 カ月間にわたり悪化傾向が続き、16 年 9 月には現状判断 DI が 43.4 まで低下した。

以後は方向感の乏しい推移が続いたが、18 年後半から悪化傾向が顕著となり、19 年 7 月には現状判断 DI が 42.3 まで低下した。21 年は感染状況により上下する動きとなった。22 年は、感染が再拡大した 7 月以降に大幅な改善をみせた。23 年も改善が続き、7 月には判断の分かれ目である 50 を突破し、その後も高水準を維持した。24 年前半に悪化したものの、後半は緩やかな改善傾向が続いた。25 年に入ると現状判断 DI、見通し判断 DI ともに低下基調へ転じ、23～24 年にみられた 50 近辺の水準から徐々に乖離した。26 年に入っても改善局面への回帰は確認されず、足元では現状判断 DI は 40 台半ば、見通し判断 DI は 40 前後の水準で推移している。

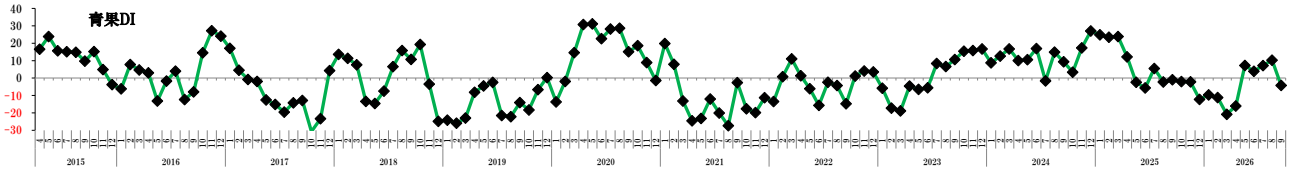




Ⅲ.カテゴリー別動向

1.　青果 DI：-4.2（やや不調）

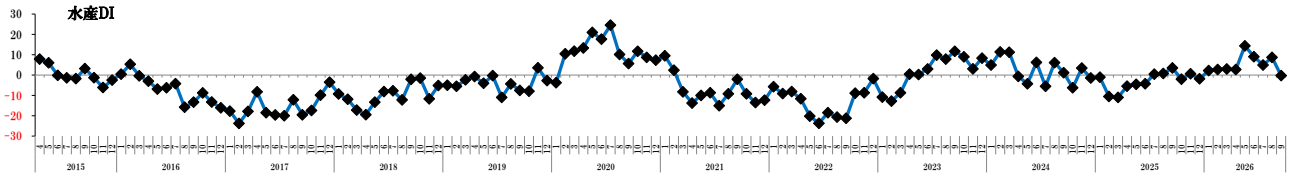
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	1.7	19.3	26.1	42.0	10.9	10.3
青果（当月）	**9.5**	**29.5**	**31.6**	**27.4**	**2.1**	**-4.2**



長雨や日照不足により入荷の不安定や相場高となった影響がみられた。野菜では、気温低下に伴いホットメニュー需要が高まり、キャベツ、白菜、大根、きのこ類などが堅調に推移。じゃがいもや玉ねぎなどの土物類にも好調な動きがみられた。一方、トマト、きゅうり、レタスなどのサラダ野菜は気温低下や入荷減の影響もあり、伸び悩んだ。果物では、ぶどう、梨、りんご、柿などの季節果実に好調な動きがみられた。

2.　水産 DI：-0.3（やや不調）

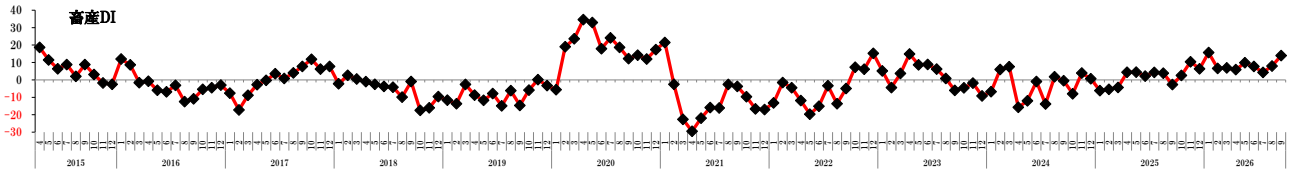
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	4.2	14.4	33.9	37.3	10.2	8.7
水産（当月）	**5.3**	**28.7**	**31.9**	**29.8**	**4.3**	**-0.3**



生さんまや秋鮭は、不漁・入荷不足による高騰で大きく伸び悩み、前年が豊漁だった反動もみられた。養殖魚や輸入魚も高値が続き、相場高を背景に買上点数の減少を指摘する声がみられた。一方、塩鮭、しらす・ちりめん、干物などの塩干や、いか、えび、かつお、サーモンなどは比較的堅調に推移し、旬の魚種の落ち込みを補う動きも。シルバーウィーク、お彼岸では、寿司や刺身類などのごちそう需要に好調な動きがみられた。

3.　畜産 DI：13.9（好調）

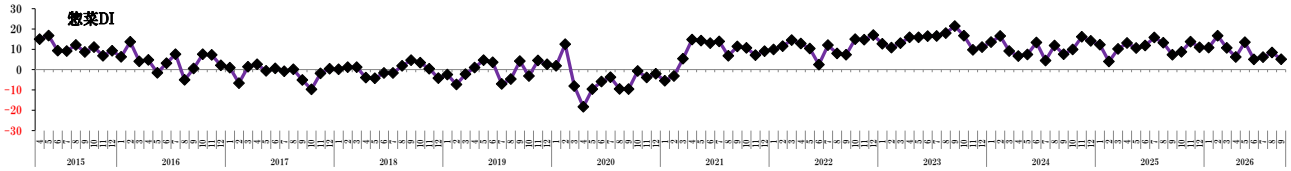
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	3.4	16.0	35.3	36.1	9.2	8.0
畜産（当月）	**1.1**	**12.6**	**32.6**	**36.8**	**16.8**	**13.9**



値ごろ感のある豚肉、鶏肉、挽肉を中心に、好調に推移した。前年より気温が低めとなった地域では、鍋や煮込み、炒め物などホットメニュー需要が高まり、豚肉の薄切り・しゃぶしゃぶ用や鶏肉などが好調だった。牛肉は相場高が続き、高価格帯の商品を中心に伸び悩みが継続。一方で豚肉・鶏肉や輸入肉など比較的値頃な商品に需要が向かう傾向がみられた。加工肉は、値上げの影響からハム、ベーコン、ソーセージなどで販売数量の減少を指摘する声がみられた。

4. 惣菜 DI：5.1（やや好調）

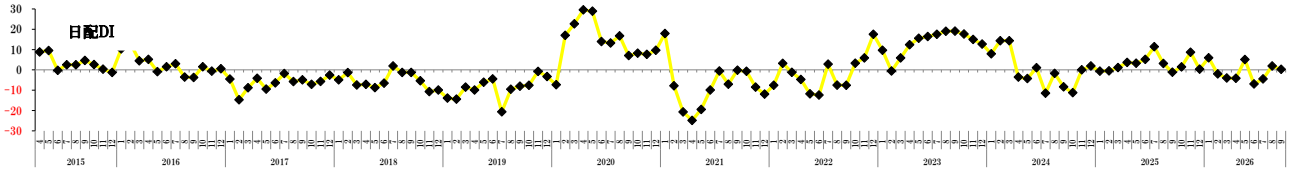
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	1.7	19.3	31.1	39.5	8.4	8.4
惣菜（当月）	**4.3**	**21.5**	**30.1**	**37.6**	**6.5**	**5.1**



雨天による行楽需要の減少、来店客数の減少が下押し要因となったものの、唐揚げ、フライなどの揚げ物や丼物、焼物などに好調な動きがみられた。前年より気温が低めに推移した地域では、冷し麺などの涼味商材が伸び悩む一方、カキフライやコロッケ、焼鳥など秋らしいホットメニューが好調だった。青果相場高でサラダや副菜が好調な企業もみられた。お彼岸やシルバーウィークには、握り寿司、弁当、おはぎなどに需要がみられ、家族での会食などの催事需要が売上を下支えした

5. 日配 DI：0.3（やや好調）

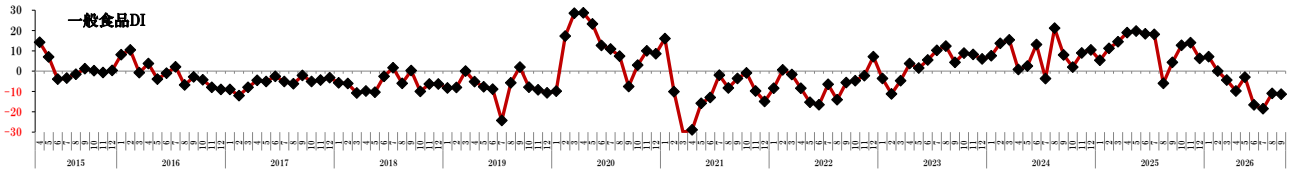
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	0.8	26.9	37.8	32.8	1.7	1.9
日配（当月）	**4.2**	**24.2**	**41.1**	**27.4**	**3.2**	**0.3**



前年より気温が低めに推移した影響から、アイス、チルド飲料、ゼリー、冷し麺などの涼味関連商品が伸び悩んだ。一方、気温の低下に伴い、中華まん、ラーメン、おでん関連など秋冬商品の動きが早まり、納豆、豆腐、こんにゃく、練り物などの和日配も堅調に推移した。洋日配では、健康需要を背景にヨーグルトが好調だった一方、牛乳、加工乳、乳飲料は価格改定や競合との価格差、気温の影響から苦戦する声がみられた。パン類は暑さが和らぎ、比較的堅調に推移した。

6. 一般食品：-11.3（不調）

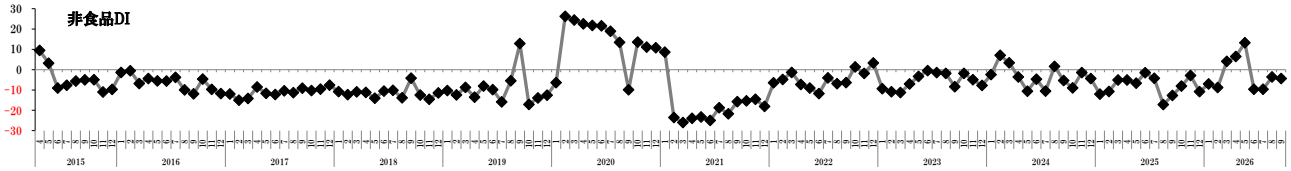
回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	11.8	39.5	31.1	16.0	1.7	-10.9
一般食品（当月）	**14.7**	**33.7**	**34.7**	**15.8**	**1.1**	**-11.3**



前年より気温が低めに推移した影響から、飲料、乾麺などが伸び悩んだ。一方で鍋つゆ、スープ、即席麺など秋冬商材の動きが早まり、コーヒーや菓子類にも好調な動きがみられた。米は、新米の販売本格化により買上点数の回復もみられたが、前年の高単価や備蓄米販売による反動に加え、販売単価が低下し売上高では前年を下回った企業が多かった。酒類では、酒税改正前の需要を店頭で訴求した企業が多く、駆け込み需要が一部でみられたものの、全体への押し上げは限定的だったとみられる。

7.　非食品 DI：-4.4（やや不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	7.6	28.8	38.1	21.2	4.2	-3.6
非食品（当月）	**8.8**	**24.2**	**46.2**	**17.6**	**3.3**	**-4.4**



ティッシュ、トイレットペーパー、洗剤、ラップ類などの生活用品に好調な動きがみられた一方、値上げによる販売点数の減少を指摘する声もみられた。前年より気温が低めに推移したことで、夏物衣料や殺虫剤、熱中症対策用品などが伸び悩む一方、入浴剤やカセットボンベ、マスクなど秋冬商品の動きが早まった。台風や大雨が相次ぎ、乾電池や防災バッグなど防災・備蓄関連商品の需要もみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：　～ 20　　好調：　20 ～ 10　　やや好調：10 ～ 0
やや不調　：　0 ～ -10　　不調：-10 ～ -20　　かなり不調：　-20～

2026 年 10 月調査（9 月実績）キーワード TOP3

1. 長雨・台風など天候不順による客数減少
2. 気温低下による夏物不振、秋冬商材へ移行が早まる
3. 値上げ継続による買上点数減少と節約志向の強まり

（参考）2025 年 10 月調査（9 月実績）キーワード TOP3

1. 単価増（価格高騰）と買上点数減
2. 猛暑（残暑）による影響
3. 日曜日が 1 回少ない

スーパーマーケット景気動向調査　集計数

9 月実績速報版　　94 社
8 月実績確報版　　124 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局　tokei@super.or.jp